

構造計算書作成時の留意点

構造計算書を作成するにあたり、確認申請等に提出する際の構成等について留意事項を列記する

原則、構造耐力上主要な部分の全ての部材について掲載が必要
当内容は、国土交通大臣の認定プログラムを前提としていない

一貫構造計算プログラムに限らず、認定・非認定に関わらず、使用者（設計者）がその適用範囲、計算過程を理解するとともに、入力ミスの防止、結果の吟味に努めることが不可欠であり安全な建築物を作成するのは設計者責任である

■安全証明書（添付有無は物件概要で要確認）

確認申請書と記載内容を整合

構造設計者の記名、押印

構造設計者の割り印（安全証明書と構造計算書表紙）

■構造計算書の構成例

1 表紙

建築物名称、構造計算書作成した構造設計者の記名（建築士の別、氏名）、押印

2 目次

計算書全体の構成を識別できるもの

3 ソフトによる一貫計算書

4 一貫計算書の構造計算チェックリスト

5 その他計算（2次部材、別途計算等）

6 地盤調査書

7 その他添付資料（認定書の写し等）

※構成にあたり注意事項

①計算書全体の通しページ付記

②ソフトによる一貫計算書

通しページ付記

タイムスタンプがある場合は一連で添付（ページ差込、追記等不可）

③構造設計者の記名、押印は計算書に関わった全ての設計者分が必要

■構造計算書の記載内容と作成上の要点

構造計算書は、次ページに示す項目、記載内容について作成上の要点を踏まえ見やすくすることに留意して作成下さい。

	<p>7.適用する構造計算 適用する構造計算の種類 計算書上準拠した指針・規準等</p> <p>8.使用プログラムの概要 使用プログラム名 バージョン 国土交通大臣認定の有無 認定番号 認定の取得年月</p>		7、8 定型項目有
2.使用構造材料一覧表	<p>使用する材料と部位、部材断面 棟木、母屋、垂木、束、梁 柱、土台、耐力壁等</p> <p>使用する材料の許容応力度 コンクリート 鉄筋 木材 アンカーボルト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料（樹種、規格等）、使用区分等が一貫計算書、構造図と整合 ・ 圧縮、引張、せん断、付着 ・ せん断弾性係数、劣化影響係数、寸法効果係数、含水率調整係数、システム係数、横座屈補正係数 	
3.耐力要素	<p>接合部、接合金物 鉛直構面 水平構面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造図と計算で利用するインプットデータと整合 	
4.略図	<p>各階伏図（基礎～R 階） 各軸組図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造図と計算で利用するインプットデータと配置（通り芯、階高、寸法、部材配置、部材符号（仕様）、開口等）の整合 ・ 構造耐力上主要な部分が含まれる通りは全て添付 	
5.荷重・外力	固定荷重		

	応力図 各部材断面計算 基礎反力図 剛性率、偏心率、層間変形角 検定比図（長期、短期）	・ 原則として全架構全部材の C・M・Q の記載	
7.保有水平耐力計算	基本方針 解析方法 崩壊メカニズムの概要 保有水平耐力の算定条件 部材復元力特性 Ds 算定時の部材終局強度 Ds 算定時の応力図 Ds 算定時の塑性ヒンジ図 部材種別 応力図 保有水平耐力算定時の応力図 保有水平耐力算定時の塑性ヒンジ図 層せん断力層間変位曲線 構造特性係数 保有水平耐力計算の結果 その他		
8.基礎計算書	基礎梁、フーチング、杭等	・ 配置図、地盤調査書で隣地、斜面、高低差等を確認	
9.その他の計算	屋根葺き材等計算 2次部材（小梁、垂木、母屋、束、スラブ、階段、耐風梁、耐風柱等）		